

プリント基板業界で、小粒でもピカリと光る大牟田電子工業株式会社！！



京セラをはじめ大手基板メーカーがひしめく中、巨大市場である、家電、自動車、航空などの業界に背を向け、試作品の1枚から対応するという独自の経営方針で、日進月歩の技術革新と競合の激しい基板業界で35年間進歩を続ける、**大牟田電子工業株式会社**が、今回の元気企業です。

無限の広がりを見せるエレクトロニクスの世界、その基本となるプリント基板、小さいけれど大きな未来へ続く道「電子回路」の開発を使命と考え、夢を追いかける会社です。

会社の歴史を教えてください

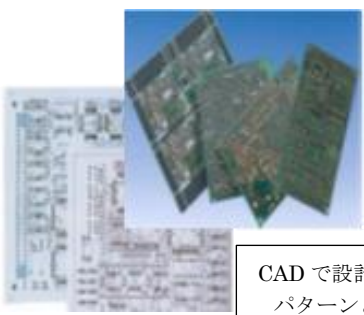
当社の前身は、(有)三池電子工業という会社でした。1960年代に急速に台頭した日本の電子工業でしたが、淘汰が進む1980年代に業績不振に陥りました。当時、鉱山閉山の流れも進み就業環境が苦しいなか、50名もの従業員への対応もあり、商工会議所の会頭、副会頭をはじめ市内の事業主が中心となり、再建の検討に入りました。検討の結果、再建は非常に難しい状況でしたが、廃業できない事情もあり再建に取り組むことになったのです。当初の3年間は累積の負債もあり赤字決算となりましたが、その後32年間は、一度も赤字を出すことなく現在に至っています。

すごいですね！経営の方針を教えてください

いくつかに分けて説明しますと、営業地域を九州に絞っています。営業分野は大量廉価の車載用基板等を相手では、安値競争にさらされ大手に対抗できない為、工作機器、ロボット、医療分野等のしかも試作品や特殊品を中心としています。顧客対応に関しては納期と品質を第一に掲げて、たとえば納期対策として外注化していた銅メッキラインの内製化などを実施しました。品質に関しては、一般に業界の不良率は1~2%と言われているなかで、当社は0.05%を達成しています。これは3Sの徹底や全ての加工機械に各製品のCADデータを入力させ人的エラーを防ぐなどの対策を取った結果だと考えています。当社の登録基板数は20万件に達し、毎日50~100件の新規パターンが作られており、これらの的確な洗い直し等も重要です。1枚から顧客の仕様に沿って、開発、設計、製造まで一括して受注するので納期の短縮、設計変更などにも柔軟に対応できることが強みでもあります。また、大量品の受

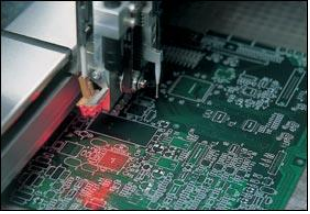


銅メッキライン



CADで設計されたパターンと基板

注の場合、顧客の仕様を設計まで実施し、製造は海外のメーカーに外注します。この場合、外注先と全数チェックの契約をしていますが、入荷後、当社で全数チェックを実施して出荷するなど品質保持に関しては細心の注意を払っています。当社の社憲である、「われわれは誠実と勇気をもって創意にあふれる仕事をしよう」「われわれは礼節を尊び協調して生活の向上をめざそう」「われわれは優れた製品で社会の繁栄に貢献しよう」を経営の基本としています。



フライングチェッカー

今後の抱負を！

技術の進歩と社会の要請に伴い、電子部品やプリント基板は日々発展しています。

この流れに遅れる事なく顧客のニーズを先取りし、小さくても存在感のある会社を社員一丸となって作っていきたいと考えています。



社長 原田隆

住所；大牟田市西宮浦町 11-15
TEL；0944-53-1411
FAX；0944-51-7507
Mail；harada@omutadenshi.co.jp
URL；<http://www.omutadenshi.co.jp/>